

水管理等の仕方で圃場毎の生育に大きなバラツキ！！
水交換等によるワキ対策と浅水管理・夜間かんがいで分けつを促進しましょう！

1 生育は全般に平年並に持ち直しているものの、十分ではありません

生育は5月下旬の天候によりやや停滞していましたが、6月に入り天候の回復とともに持ち直してきました。

管内では、移植後の降雨による深水や曇天等の影響で4～5葉目の葉身が長くなり、風の影響等で葉色がやや淡い圃場が見られ、茎数はやや少ない状況です。

6月以降、ワキ対策のための水管理（水交換、落水、軽い田干し）を行っている圃場が多く見られていますが、ワキ対策が不十分、深水気味の管理の圃場を中心に、生育量が少ない圃場が見られます。

引き続き、初期茎数を確保するための浅水管理・夜間かんがいと、水交換等によるワキ対策の徹底が必要です。

表1 「つや姫」の生育概況（6月10日調査、庄内普及課作況圃等）

項目	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉齢(枚)		葉色(SPAD)	
	上清水	鶯畑	上清水	鶯畑	上清水	鶯畑	上清水	鶯畑
本年	33.4	29.5	265	349	6.7	6.9	26.9 (36.6)	40.1
平年	30.2	-	276	-	6.7	-	37.9	-
平年比差	111	-	96	-	±0	-	-11.0 (-1.3)	-
指標	27.0		250		6.7		35	

本年移植 上清水:5月12日 鶯畑:5月11日 ※平年値:過去5年の平均
葉色(SPAD)・5葉目を測定（カッコ内は6葉目の測定値）

表2 「はえぬき」「雪若丸」の生育概況（6月10日調査、庄内普及課作況圃）

項目	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢(枚)	葉色(SPAD)	
はえぬき (矢馳)	本年	30.0	318	6.7	31.0 (34.5)
	平年	28.7	351	7.0	37.7
	平年比差	105	91	-0.3	-6.7 (-3.2)
雪若丸 (長沼)	本年	24.5	288	6.5	40.2
	[指標]	[26.0]	[280]	[6.8]	[41.0]
	[指標比差]	[94]	[103]	[-0.3]	[-0.8]

本年移植 はえぬき:5月16日 雪若丸:5月13日
葉色(SPAD)・5葉目を測定（カッコ内は6葉目の測定値）

○今後の天候（气象台、令和3年6月10日発表）

向こう1カ月は降水量と日照時間はほぼ平年並で、平均気温は高い見込みです。
特に、今後1週間は最低気温が平年より高い見込みです。

2 ワキ対策+適切な水管理=初期生育の確保 ⇒ 速やかな中干しを！！

○ワキ対策

⚠️ ワキが非常に進みやすい天候です。ワキの程度に応じた対応をとりましょう。

ワキの程度が強い場合は、水交換や落水だけでは不十分な場合があります。
ワキが強いと感じたら、2～3日田干しをすると根域環境の改善につながります。

表3 ワキの程度と対策方法

ワキの程度の目安	生育への影響	生育初期の対策
水田に足を踏み込むとわずかに気泡の発生がみられる	なし	—
水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	速やかな水交換
水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する	根張り不良	田干し、夜間落水

⚠️ 表層剥離、藻類の発生が多い圃場が見られます！水交換と浅水管理を徹底しましょう！！

○適切な水管理

⚠️ 分げつが出にくい気象です。日格差を大きくする水管理をとりましょう。

最低気温が高いと日格差が小さくなり、草丈は伸びますが分げつ発生は緩慢になります。
いかに日格差を大きくするかが、分げつ発生促進のために重要になります。

○日格差をつけるための水管理

- ・日中はできるだけ水温高く⇒浅水管理* ・夜間はできるだけ水温低く⇒夜間かんがい
- ※浅水管理は2～3cmが基本です。水深が深いと水温が上がりません。
水尻を調整して、降雨の場合も水深が深くないようにしましょう。

○適期の中干し

今後も気温は高く経過する見込みです。

指標並に生育している圃場では、例年よりも早く有効茎に達する可能性があります。
目標茎数の8～9割を確保した圃場から速やかに中干しに入りましょう。

⚠️ 昨年は6月下旬からの降雨で、中干しが不十分な圃場が見られました。

表4 主な品種ごとの中干し開始の目安（坪70株植えの場合）

	有効茎数	m ² あたり茎数 (有効茎数の8～9割)	株あたり茎数
つや姫	440本/m ²	350～400本	16～18本
はえぬき	540本/m ²	430～490本	20～23本
雪若丸	580本/m ²	460～520本	21～24本

🍡 雪若丸 情報

⚠️ 上記の対策を実施した上で茎数が不足している圃場では、補完追肥を検討しましょう。

- 6月10日現在で、茎数が指標値（表2参照）よりも極端に少ない圃場
- ・窒素成分量1kg/10a程度を補完追肥後、自然落水で浅水管理を実施



注意

※補完追肥を実施した場合、穂肥量は減肥すること
(基肥+追肥=窒素成分8kg/10a以内 とする)

※特別栽培で補完追肥を計画していない場合、登録内容の変更届を提出